

目的 暑さ寒さに対する身体機能が低下する中で、快適で自立した生活を過ごすために、RC造りの集合住宅のシルバーハウジングにおいて、室内環境をどのように整備すればよいのかを明らかにすることは室内計画上重要である。そこで本研究では、室内環境の実態を居住者サイドから、夏期・冬期の快適性を健康状態や間取りや住み方との関係で評価を試みることを目的とした。

方法 調査方法は第1報と同じである。それに加えて、この目的に関連してケーススタディとして室内の温度・湿度の測定をした。

結果 1、住み心地評価は、夏期にいつも居る部屋では、風通し、明るさ、日当たりに対してよい評価が得られた。2、とくに台所に小窓を設け南北の通風の得られるプランに乾燥の評価が高い。3、一般の公営住宅混在型で、シルバーハウジングが1階に配置されている場合は、湿気が多く、風通しも悪いとの評価が多い。4、明るさに対しては、DKが南側に面しているプランにプラスの評価が得られた。5、本対象住宅では、夏期の温湿度の実測値より得た不快指数では、過半数の者が不快と感じる温湿度条件下にあるが、居住者の評価では必ずしも過ごしにくいというマイナスの評価の割合が少ない。6、クーラーの普及率は約半数であるが、実際にはクーラーを使用している者はその半数しかなく、窓を開けるといふ防暑対応が最も多い。7、温熱環境の対応には、着衣によって対処しているが、とくに神経痛や関節の痛み、身体のだるさ、腰痛などの自覚症状のある人がこまめに着衣量の調節を行っていることがわかった。